

追悼 鹿児島県名誉県民 稲盛 和夫さん

本県の名誉県民である京セラ名誉会長の稲盛和夫さんが、令和4年8月24日にご逝去(享年90歳)されました。これまで長い間、日本経済の発展に大きく貢献されてきた稲盛さんは、「故郷かごしま」の発展のためにも、さまざまな方面から「尽力」されました。改めて、生前の幾多のご功績をたたえ、ともに、深く感謝の誠をささげ、衷心より「冥福をお祈りいたします」。今回は、稲盛さんの本県に貢献いただいた主なご功績をご紹介します。

いなもりかずお
稲盛 和夫さん(略歴)

1932年鹿児島市生まれ。55年鹿児島大学工学部を卒業後、京都府の松風工業に入社。59年京都セラミック(現京セラ)を設立し、代表取締役社長、代表取締役会長を経て、97年から取締役名誉会長、2005年から名誉会長に。また1984年第二電電企画を設立。2000年ディーディーアイ(現KDDI)を設立し、取締役名誉会長を経て、01年最高顧問に。10年政府の要請を受けて日本航空会長に就任し、15年から名誉顧問に。



京セラ工場の立地

稲盛さんは、昭和44年から昭和58年にかけて、京セラの工場を本県の川内(薩摩川内市)、国分(霧島市)、隼人(霧島市)で次々と操業されました。その後、京セラは、本県と特にご縁の深い企業として、日頃から産業振興や雇用の創出・確保など、本県の発展に多大なご貢献をいただいています。



鹿児島川内工場(全景)



鹿児島国分工場に昨年10月新設された研究開発施設「きりしまR&Dセンター」

写真提供:京セラ

京都賞受賞者鹿児島講演会

「京都賞」は稲盛さんが理事長を務められた稲盛財団により昭和59年に創設され、先端技術、基礎科学、思想・芸術の各部門で大きな貢献をされた方々を表彰し、世界を代表する知性をたたえる国際賞として知られています。その関連行事として、平成26年度以降、本県に受賞者をお招きして講演会を開催しており(令和2~4年度は新型コロナウイルスにより中止)、将来の鹿児島を担う高校生や大学生をはじめ、広く県民の方々に参加いただき、文化的・学術的意識の高揚が図られています。



関西かごしまファンデーの開催

稲盛さんは、長年にわたり関西鹿児島県人会総連合会の会長を務められ、本県出身者の親睦や連携の促進にご尽力いただきました。また、同連合会会長として、平成15年から毎年、関西エリア最大の物産観光展である「関西かごしまファンデー」を主催(令和2~4年度は新型コロナウイルスにより中止)。関西のかごしまファンに本県の特産品や観光を大いにPRしていただきました。

かごしま国際交流センターの設立

令和2年4月に、稲盛さんから県と鹿児島市にそれぞれ10億円ずついただいたご寄付をもとにして造られた「かごしま国際交流センター」が開所しました。

本センターは、稲盛さんが「海外に向けて開かれた鹿児島をつくりたい」というふるさとへの想いを語られていたことから、その熱い思いに応えるべく、国際社会に貢献する人材の育成や国際相互理解の促進を図るための施設として整備されました。



写真提供:関西鹿児島県人会総連合会